

あやべ 市議会だより

AyabeCity
Assembly
News Report

2018年(平成30年)
11月発行

No.123

発行/綾部市議会 綾部市若竹町8の1 綾部市議会事務局 TEL・FAX (0773)42-1259

E-mail/gikajimukyoku@city.ayabe.lg.jp ★ホームページのアクセスは、検索画面で を入力してクリック!



議会の新体制が決定

写真：コスモスまつり

議会の新体制が決まりました

就任あいさつ



議長 高橋 輝



副議長 森 義美

晩秋の候 市民の皆様には
お元気でご活躍のこととお
喜びを申し上げます。

日頃から、綾部市政と綾
部市議会の運営に関しまし
て、格別のご理解とご協力
をいただいておりますこと
に、心から感謝を申し上げ
ます。

さて、本年の8月、酷暑
の中執行されました綾部市
議会議員一般選挙におきま
しては、市民の皆様にご選

任いただき、18名が第18期
の綾部市議会議員として選
任いただいたところです。

そして今回、9月定例会
におきまして、歴史と伝統
ある綾部市議会の議長、副
議長に就任させていただき
ました。市民の皆様が安全・
安心に、そして心豊かに笑
顔で暮らせる綾部実現のた
めに、全身全霊をかけて頑
張る覚悟でございます。ど
うか、皆様のご理解とご協
力を、心よりお願い申し上
げます。

昨年、全国の自治体議会
において議会改革が行われ、
議会基本条例の制定をはじ
め、議会情報の公開など市
民の皆様と議会との距離を
縮める取り組みが進んでい
ます。

綾部市議会では、いち早
く議会改革に取り組んで

ました。議会基本条例を制
定し、各地区へ出向いて議
会報告会（市民と議会のつ
どい）を開催し、平成30年
度は259名のご参加をい
ただきました。また平成29
年9月定例会より本会議の
一般質問をライブ中継する
など、議会の「見える化」
を進めてきたところです。

さらに政務活動費を実績払
いにし、より厳格に予算が
執行できるよう努めてきま
した。

引き続き、一人でも多く
の市民の皆様から、ご意見
やご要望を頂戴し、市民の
皆様と一緒にたつて政策提
案を行い、市政執行をチェッ
クして参ります。今後もご
理解とご協力を賜りますよ
うお願い申し上げます。就任の
あいさつとさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願
い申し上げます。

議会運営委員会

- 委員長 荒木 敏文
副委員長 種清 喜之
委員 柳原 秀一
片岡 英晃
搦頭久美子
吉崎 久
安藤 和明



定例会の会期や進め方などを協議し、円滑な議会運営を行います。

議長	高橋 輝
副議長	森 義美
監査委員	安藤 和明
京都府後期高齢者 医療広域連合議会議員	安藤 和明
京都地方税機構 議会議員	荒木 敏文

■ ■ ■ 常任委員会 ■ ■ ■

総務教育建設委員会

委員長 村上 宣弘
 副委員長 本田 文夫
 委員 酒井 裕史 井田佳代子
 柳原 秀一 吉崎 久
 荒木 敏文 種清 喜之
 高橋 輝

企画財政部、総務部、建設部、会計課、消防本部及び教育委員会の所管に関する事項について審査します。



産業厚生環境委員会

委員長 片岡 英晃
 副委員長 渡辺 弘造
 委員 塩見麻理子 梅原 哲史
 藤岡 康治 中島 祐子
 搦頭久美子 安藤 和明
 森 義美

市民環境部、福祉保健部、農林商工部、定住交流部、農業委員会及び上下水道部の所管に関する事項等について審査します。



予算決算委員会

議員全員で構成

委員長 種清 喜之 副委員長 吉崎 久
 予算決算議案等に関する事項について審査します。

■ ■ ■ 特別委員会 ■ ■ ■

防災対策特別委員会

議員全員で構成

委員長 搦頭久美子 副委員長 柳原 秀一
 防災対策について必要な調査研究をします。

平成30年12月定例会の日程予定

12月定例会は、12月3日から12月21日までの19日間の会期で予定しています。

- 12月3日(月) 本会議(議案上程)
- 10日(月) 請願受理締切り(正午)
- 11日(火)~13日(木) 一般質問
- 14日(金) 総務教育建設委員会
- 17日(月) 産業厚生環境委員会
- 18日(火) 予算決算委員会(予算審査)
- 19日(水) 予算決算委員会(総括質疑)
- 21日(金) 本会議(採決)



議場の名札を一新しました。

(倒木したトチの木使用)



平成30年9月定例会を9月18日から10月26日までの39日間の会期で開催しました。

本定例会では市長から提案された議案29件を審議しました。議案については、いずれも原案のとおり可決・承認・同意しました。(採決の結果は7ページに記載)

上程された議案は、3つの常任委員会に付託され、審査しました。その内容は次のとおりです。

予算決算委員会

平成29年度決算を可決・認定

「住み続けられるまちづくり」を目指した施策を積極的に推進

■決算審査

●審査のあらまし

決算審査は、10月17日から10月23日までのうち5日間にわたり慎重に審査しました。

一般会計と特別会計の歳入総額は303億8773万円、歳出総額は301億6838万円で、歳入歳出差引は2億1935万円の黒字となりました。一般会計では46年連続の黒字となっています。

公営企業会計は、上水道事業の当年度純利益5502万円で35年連続の黒字となり、病院事業の当年度純損失は4365万円の赤字となり

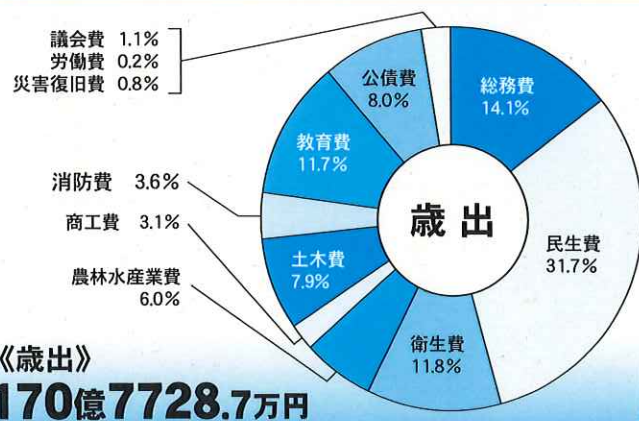
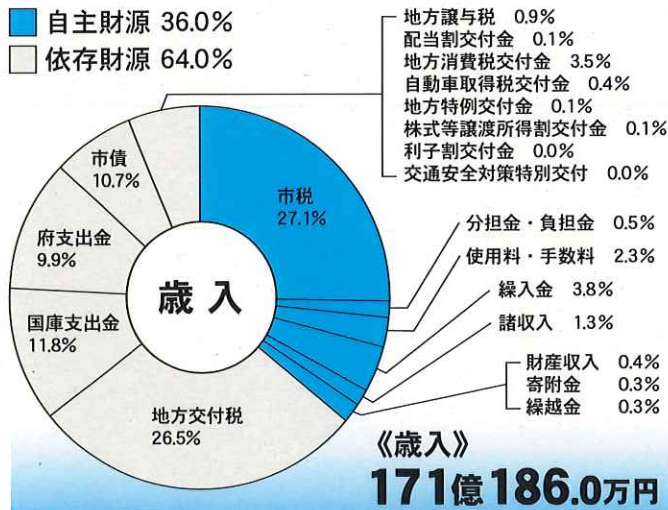
ました。入院患者数の増加等、医業損失は改善していますが、2年連続の赤字となっています。

●有利な財源を活用し、持続可能な財政運営

一般会計の市債(借金)は5億6217万円増の138億7349万円となり、基金(貯金)は3億6525万円減の38億5048万円となりました。

市債の借入に当たっては、交付税の算入等、後年度の償還に有利な市債発行となっています。

平成29年度歳入歳出の状況(一般会計)



平成29年度会計別決算収支の状況

(単位:円)

区分	歳入総額	歳出総額	
一般会計	17,101,860,285	17,077,287,107	
特別会計	市立診療所等	36,642,145	36,642,145
	農林業者労働災害共済	4,010,674	2,724,838
	国民健康保険	4,283,892,666	4,274,269,886
	介護保険	4,880,036,353	4,735,318,462
	後期高齢者医療	545,667,658	535,898,014
	駐車場	22,184,353	22,184,353
	簡易水道	515,226,815	515,226,815
	下水道事業	2,242,514,422	2,213,129,867
	地域排水事業	716,066,235	716,066,235
	住宅・工業団地事業	39,629,198	39,629,198
合計	30,387,730,804	30,168,376,920	

区分	収入	支出
公営企業会計		
上水道事業	822,449,728	767,429,643
病院事業	6,384,650,991	6,428,305,427

■ 審査の結果

一般会計は賛成多数、他の12議案は全員賛成で可決及び認定となりました。委員会審査の意見調整で出された主な意見は次のとおりです。

■ 一般会計

《全般》

- ・市債は増加したものの臨時財政対策債を除けば、市民のための適正な投資財源であり、厳しい中で健全な財政運営を評価する。今後とも特別会計の市債発行額とのバランスに配慮しつつ、健全な財政運営に努められたい。

《総務費》

- ・職員への定期健康診断やストレスチェックの実施を評価する。今後も疾病の早期発見・早期治療を促し、職員の健康管理に留意するとともに、時間外労働の削減に努められたい。

《民生費》

- ・ファミリー・サポート・センター事業については、既存の施策では対応できていない子育て支援のニーズに対応するもので新たな取り組みとして評価するが、利用料が高く利用しにくいとの声もあるため、利用者数増加のためにも利用者負担軽減の対策を求める。

《衛生費》

- ・不妊治療給付事業費を評価する。さらに活用いただくために限度額の引き上げや制度のさらなる周知方法を検討されたい。

《労働費》

- ・就職情報の提供を行い、合同就職フェアを開催す

るなど、人材確保の取り組みを評価する。今後さらに深刻化する人材不足に対して、積極的な施策の展開を期待する。

《農林水産業費》

- ・農業者の高齢化が進む中で、新規就農者に期待するところは大きい。新規就農には資金が必要なため、今後も就農援助のさらなる充実を図られたい。

《商工費》

- ・工場設置奨励金交付事業を評価する。今後も、市内企業の設備投資が促進される制度として充実を図られたい。

《土木費》

- ・災害などで被災した市道の迅速な復旧を評価する。繰り越した事業もあり、引き続き迅速な対応を期待する。

《消防費》

- ・24時間体制の消防署上林出張所を開設されたことを高く評価する。自然災害が多発する中、市民の安全・安心を守るためにも、消防職員の増員を図り、充足率の向上に努められたい。

《教育費》

- ・児童生徒の安全確保の面から、緊急性も考慮しながら老朽化した施設の改修や備品の更新を計画的に進められたい。

■ 市立診療所等特別会計

- ・医療過疎地域における今後の医療について、医師会等とも連携し研究すること。

■ 農林業者労働災害共済特別会計

- ・高齢者の事故が増える傾向であり、啓発を強められたい。

■ 国民健康保険特別会計

- ・人間ドック総合健康診断費補助など、各種減免制度等の周知に努められるとともに、生活習慣病の予防の啓発を進められたい。

■ 介護保険特別会計

- ・認定調査員の増員を行い、スムーズなサービス利用につなげられたい。

■ 後期高齢者医療特別会計

- ・被用者保険の被扶養者の軽減措置がなくなり負担増となるが、実態を把握すること。

■ 駐車場特別会計

- ・周辺に割安な民営駐車場ができるなどの影響により、利用台数・使用料収入の減少が続いている。

料金設定など、利用者拡大の対策を求める。

■ 下水道事業特別会計

- ・公共下水道事業において、内水被害を軽減するため、排水ポンプ車の購入や長年要望のあった古川樋門への雨水ポンプ場整備に着手したことを大いに評価する。



内水被害を軽減 —排水ポンプ車—

■ 上水道事業会計

- ・有収率アップに努められたい。

■ 病院事業会計

- ・新専門医制度導入で困難もあるが、医師確保に努力されたい。

(仮称)新市民センターの工事請負契約を変更

総務教育建設委員会

●(仮称)新市民センター整備工事(建築本体工事)請負契約金額を増額

(仮称)新市民センターの整備工事請負契約の契約額が増額されます。その理由は労務単価・資材単価の高騰による急激なインフラが生じたものと、有利な市債を充当することで財源が確保されるため、備品購入として予定していたものを工事費に参入するためです。

質疑の中で、「備品購入費の金額と内容は」との質問に対し、「約2210万円で、競技場のバトン、トイレのベビーチェア、ベビーベッド、武道館の移動観覧席、柔道畳である」との答弁がありました。

また、「労務単価・資材単価の高騰はどのようなものが該当するのか」との質問に対し、「鉄

筋が25パーセント、鉄骨が15パーセント、コンクリートが12パーセントである」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他2議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決及び承認となりました。



(仮称)新市民センターの完成予想図

家庭的保育事業や小規模保育事業の要件緩和

産業厚生環境委員会

●綾部市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正

国の省令「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部を改正する省令」が平成30年4月27日に公布、即日施行されたことに伴い、家庭的保育事業における連携施設及び食事の提供に関する規定について、所要の改正を行うものです。

質疑の中で、「食事の提供の経過措置について、市内で5年の経過措置を利用している事業者がなければ、10年に延長する必要がないのでは」との質問に対し、「子ども・子育て支援新制度開始時に、それまで同様の事業を行っていた事業者が円滑に制度を運用し、参入しやすいよう経過措置が設けられてきた。今回の改正は、

国基準に基づき市の条例も改正するもの。今後、参入する事業者はこの条例に基づいた取り扱いがなされる」との答弁がありました。

また、「現在市内で事業者がないのは、本市には待機児童がないということか。全国、近隣市の施設の認可状況はどうなっているか」との質問に対し、「本市には待機児童はない。平成28年度の認可状況として、全国では、家庭的保育事業958、小規模保育事業2429、居宅訪問型保育事業9、事業所内保育323の計3719事業所である。うち京都府内では、京都市で84、京都市以外で21、全体で105事業所がある。近隣市に事業所はない」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

7月豪雨災害の早期復旧を図る経費を計上

予算決算委員会

●平成30年度一般会計補正予算(第3号)

7月豪雨災害の早期復旧を図るための小規模治山事業や安全・安心で豊かな地域づくりを推進するため定住促進、IoT技術による先進的な農業振興などに要する経費です。

小規模治山事業費、水源の里活性化事業費、農業IoT実装推進事業費など、総額3億134万円の追加予算を計上するものです。

●平成30年度一般会計補正予算(第4号)

7月豪雨及び9月豪雨等による災害からの復旧・復興に向けて、半壊となった被災住宅の解

体や墓地、公園、市道、私市円山古墳の復旧に要する経費です。

災害等廃棄物処理事業費、墓地災害復旧事業補助金、現年発生公共土木施設災害復旧事業費、現年発生社会教育施設災害復旧事業費など、総額1億6756万円の追加予算を計上するものです。

その他、特別会計4件、専決処分事項の報告3件について審査しました。

採決の結果、9議案とも全員賛成で可決及び承認となりました。

同意した人事案件

●監査委員の選任

●公平委員会委員の選任

●固定資産評価審査委員会委員の選任

安藤和明 議員(議会選出) = 新

塩尻澄雄 さん(上八田町) = 新

由比濱好子 さん(味方町) = 再

討論

議第62号 「平成29年度綾部市一般会計歳入歳出決算について」

日本共産党
井田 佳代子

反対

賛成

民政会
安藤 和明

「消防上林出張所の24時間体制」「市内全小中学校での自校調理方式の給食」「子どもの医療費2000円で中学校卒業まで通院も入院も」など大いに評価する。市内の給与所得者の年平均所得額は2000年から2015年で約40万円も減少し、5人に1人が就学援助を受けているという状況が続いている。医療・介護でも年金に占める保険料の割合は、25%にもなっており負担は限界。安心して医療と介護を受けられるよう、市立病院での無料定額診療制度の実施や保険料利用料低減の市独自軽減策を求める。防災では、7月豪雨や台風の問題を見直し対策の強化を。市立病院での医療費請求ミスの再発防止を求める。

子どもの貧困と暮らしの実態調査を

山崎市政2期8年の仕上げの年度として、市長を先頭に現地現場主義で市民生活の安全安心、子育てや教育環境の整備に取り組み大きな成果を生んだ。財源は、国の地方創生交付金や基金からの繰り入れを行い、170億8千万円と前年対比2%増の積極的な決算結果。主要な施策は、北部産業創造センターなどのづくり館や(仮)新市民センター・センター開設、消防上林出張所整備と24時間体制の確立などソフト・ハード両面で結果を出した。しかし自然災害も多発し財政を圧迫しつつある。特に経常収支比率は94.1%と過去最高数値で、財政の硬直化が懸念される。

スピード感で取り組んだ29年度

議決結果の一覧

■全員賛成で可決・認定・同意・承認した議案

件名	結果	件名	結果
市長提案の議案		平成29年度決算議案	
議第56号 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可決	議第69号 簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議第76号 (仮称)新市民センター整備工事(建築本体工事)請負契約の一部変更について	可決	議第70号 下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議第77号 損害賠償の額を定めることについて	可決	議第71号 地域排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
平成30年度補正予算		議第72号 住宅・工業団地事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議第57号 一般会計補正予算(第3号)	可決	議第73号 上水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	可決及び認定
議第58号 農林業者労働災害共済特別会計補正予算(第1号)	可決	議第74号 病院事業会計利益の処分及び決算の認定について	可決及び認定
議第59号 国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決	人事案件	
議第60号 介護保険特別会計補正予算(第1号)	可決	同第3号 監査委員の選任について	同意
議第61号 後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	可決	同第4号 公平委員会委員の選任について	同意
議第75号 一般会計補正予算(第4号)	可決	同第5号 固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
平成29年度決算議案		専決処分事項の報告	
議第63号 市立診療所等特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	報第3号 市税条例の一部改正について	承認
議第64号 農林業者労働災害共済特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	報第4号 一般会計補正予算(第2号)	承認
議第65号 国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	報第5号 簡易水道特別会計補正予算(第1号)	承認
議第66号 介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	報第6号 地域排水事業特別会計補正予算(第1号)	承認
議第67号 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定		

■賛否が分かれた議案

会派名	民政会					創政会			共産党		新政会	公明党	心友会					
	種清	片岡	安藤	本田	酒井	藤岡	荒木	渡辺	柳原	梅原	搦頭久美子	吉崎	井田佳代子	中島	村上	森	塩見麻理子	
議員名	喜之	英晃	和明	文夫	裕史	康治	敏文	弘造	秀一	哲史	久	祐子	宣弘	義美				
件名・結果																		
議第62号 一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○					○			×		○	○	○	○	○	○	○

※議長は採決に加わっていません。

市政を問う

10月1日から3日の3日間にわたって16人の議員が市政全般について質問を行いました。ここでは一般質問の要旨を掲載します。(掲載は登壇順)

森林再生による、防災機能強化を

新 政 会 村 上 宣 弘



Q 森林の持つ多面的機能には、土砂災害防止機能もあるが、今回の7月豪雨での森林崩壊による被害の状況は。

A 被害箇所は110カ所、被害報告の多かった地区は豊里地区42件、東八田地区12件、吉美地区11件、物部地区、志賀郷地区が各10件。

Q 7月豪雨の災害は、森林の手入れがされなくなっただけでなく、一因があると考えます。現在の本市の森林には、防災機能は備わっているのか。

A 森林所有者の林業への関心が薄れて山に入らなくなっており、森林の維持管理

が不十分な箇所が増えていたため、多面的な機能は低下していると考えます。

Q 本年に限らず、今後同様の土砂災害が起こる可能性は高いと思われる。抜本的な解決策はないにしても、森林整備等による災害抑制が有効な手段と考えるが、どうか。

A 災害防止の観点からも、特に間伐等の森林整備が必要と認識している。現在、国・府補助や市単費の補助、豊かな森を育てる府民税の交付金を活用して基幹作業道の改修や間伐に対する支援を行っている。

旧町内はさらなる共助の強化を

創 政 会 梅 原 哲 史



Q 人口が集中している旧町内の防災計画は、公助として市役所職員を中心とする計画では限界がある。全域に避難勧告や避難指示が発令された場合、ほぼ全ての住民が避難者として行動する可能性もあり、自治会、自主防災組織との連携が大切である。避難する者とその役割分担、責任をはっきりさせ、いつ、誰が何をするのかを具体的に定め、さらなる自助、共助体制を計画に加えることが大切である。

A 計画に対応が可能かどうか、年度によって体制や対応が変化

することを考慮し、自治会連合会や各自治会との密な連携が必要であると考えます。

Q 災害時は行政の力だけでできることは限られており、災害の規模が大きくなるほど、公助の手が市民の皆さんに届くには時間がかかる。市民一人一人の自助あるいは隣近所、自治会、自主防災の共助の取り組みが極めて重要である。

A 本市には自主防災組織育成計画があり、防災知識や技術の習得、災害時の具体的な役割など自主防災組織の育成に努めることになっている。また、地域の中のリーダー育成、現リーダーへの支援が大切であり、今後、一層、地域防災の中心として自主防災組織の活動を活発にしていきたい。行政としても連携を強めていく。

綾部っ子の学力は

民 政 会 安 藤 和 明



Q 毎年全国統一で実施される小学校・中学校の学力学習状況調査の30年度の綾部市の状況はどうか。

A 平成30年4月に小学6年生、中学3年生を対象に全国学力学習状況調査が実施された。本市の結果は、平均正答率で小学校の国語のA・B問題ともに、全国1位の秋田県よりも1点上の78点と62点。算数A・Bも同様全国トップレベル。中学校においても、数学・国語・理科共に全国トップの各県の平均正答率と同レベルとなっている。

平成19年頃の小中学校荒廃の反省に立って、学校・教師・保護者・地域・行政が一体となって向き合った結果であり感慨深い。議会・行政でもこの間に小中一貫教育の実施や学校給食完全実施、空調設備の整備など子どもたちの学べる環境の充実を提案し実現してきた。地域においても、見守り隊の編成や毎日の声かけ運動など全市で綾部っ子を育てるまちづくりを進めた。まさに「綾部教育の奇跡」市教委の見解は。

A 教育委員会は子どもたちの希望進路の実現に向けた魅力ある授業づくり、保護者、地域から信頼される開かれた学校づくりに学校現場とともに取り組み、「あい紡ぎプラン」に基づいて小中一貫の教育体制を充実してきた。

誰もが使いやすい安全な新図書館を

日本共産党 中 島 祐 子



Q 今後、電子化が進む時代だからこそ、子ども時代に遊びの一環として伸び伸びと絵本に触れる環境が大切。綾部市は雨が降った日に子どもと遊びに出かけられるところがなく、新図書館の建設に期待する子育て世代の声も非常に大きい。子育て世代や子どもたちが使いやすい環境の整備の方針は。

A 図書館の検討委員会では静かなスペースと、少しにぎやかに交流できるスペースをゾーン分けして考えるところという方向の提案もしている。雨が降った日の利用についても、親子連れ

や子どもたちも気軽に来られる図書館を目指して今後検討を重ねたい。

Q 建設予定の駅北地域は、防災ハザードマップの浸水区域となっている。幅広い市民が安全に利用でき、貴重な資料を保管する施設として、しっかりとした安全対策が必要。また、綾部に暮らす多くのアーティストの方々の力を活かして、ぜひ綾部らしい図書館の整備を。

A 今後の検討委員会では施設の機能や安全性についても委員で意見交換を行い、議論を進めていきたい。検討委員会での意見を踏まえ、今後、皆さんが求めておられるような綾部らしい、よい図書館ができるように協議を進めていきたい。

子どもの医療費は実質200円で

日本共産党 井 田 佳代子



Q 綾部市の子どもの医療費は中学校卒業まで200円で、お金の心配をすることなく早期に受診することによって重症化を防ぐことにつながっている。貴重な収入源であると答弁された、市立病院での子ども初診時特定療養費はいくらになるのか。

A 病床数200床以上の病院は、紹介状を持たない初診患者から、初診時特定療養費を徴収できる。中学生までの初診時特定療養費は把握することはできないが、初診時特定療養費の総額は、29年度決算見込み総額で379万円。28年度382

万円となっている。

Q 年間外来者数から14歳以下の初診時特定療養費を推計すると、年間約50万円になると考える。500床以上の病院は取らなければならないとされているが、206床の市立病院は市長が決定するもの。子育て支援を重要な施策としていくことを重視するならば、せめて子どもの特定療養費は廃止するべきではないか。

A 近隣市と比較しても格安の料金に設定している。この制度の趣旨は、かかりつけ医、診療所と病院がそれぞれ役割を分担、連携することで、地域全体で良質な医療を効率的に提供すること。病院と診療所の機能分担を推進することも重要であると考えている。

同一箇所での土砂崩落はなぜか

日本共産党 吉崎 久



値の変動も小さいため安定していると判断し撤去された。

Q 現状の復旧工事で再度崩落するとは想定していなかったのか。

Q 旭町での土砂崩落は平成25年に続いて同一箇所で二度目。この災害をどのようにみているのか。

A 災害復旧工事で道路から50メートルの範囲でのり面復旧工事を行った。その後排水路整備も行い安定していると判断していた。

Q 復旧工事に伴い、京都府から地盤伸縮計を借りて設置されたが、その設置期間と目的は。本来長期の設置が必要だったのではないか。

A 設置目的は地滑り状況の把握のため。期間は6カ月だったが、地滑りでなく表層滑りと判断し、数



綾部スタイルのキャリア教育を

民 政 会 片岡 英晃

学校現場だけのキャリア教育には限界がきていると感じている。今こそ、民間や地域との連携にて、綾部スタイルのキャリア教育を確立させ、子ども達がふるさとの産業やものづくりの知識を蓄え、たとえ一度ふるさとを離れても、再び戻ってくるような教育をすることが、人口減少に歯止めをかけるのではないか。

Q 綾部はものづくりのまちであり、多くの企業がすばらしい技術で生産活動をされている。今後、綾部の技術を守り継承するためにも、小学生の時にものづくりに興味を持つ取り組みが重要だが、現在の取組状況は。

A 高学年児童を対象に「ものづくり体験ツアー」を実施している。平成30年度は北部産業創造センターで、試験装置等を活用し、驚きと楽しさをもって体験してもらい、併せて綾部工業団地の工場見学も実施した。今後はロボットサミットも計画している。



スポーツ施設の確保を

民 政 会 本田 文夫

変難しく、財源確保も大きな課題であり現状では困難である。

Q 第二市民グラウンドが使用できない状態で、グラウンドを確保するのに多くの利用者が毎回大変苦労している状況にも関わらず、高倉グラウンドがテニス大会の駐車場として利用されているのは不適正利用では。駐車場が確保できないのであれば、土日が休みの企業の駐車場を借用しては。

Q 多くのスポーツ少年団・社会人が愛用してきた第二市民グラウンドが、たび重なる水害により使用不可能になっている。今後水害の可能性があり、復旧が不可能であるならばスポーツ少年団・生涯スポーツ推進のためにも新たなグラウンド建設の計画が必要と考えるが。

A 第二市民グラウンドの復旧については多額の費用を要することから、現段階では大変難しいと考えている。新たな場所でのグラウンド建設については、市街地において広大な面積を確保することは大

A グラウンドを駐車場として利用する場合もあるが、これは限られた公共施設をより多くの方に効果的かつ有効に利用していただくためである。企業の駐車場を借用することについては、事業所の防犯上の課題もあることから市から要請することは大変難しいと考える。

共生社会（共に生きる）づくりを

心友会 塩見 麻理子



域の特色に合わせた支援策が必要。行政が遠慮せず入り込み今回の災害をきっかけに議論を深め、議員も各地域のコーディネーターとして大いにつかってほしい。

Q 今後の災害対策は、共助の強化を徹底的に行う必要がある。特に自治会や組単位など小さなコミュニティでの対応が必要。第三者組織も必要になる。行政としてどのようにお考えか。

A 行政の力だけでできることは、限られており共助の取り組みが極めて重要。自治会組織の重要性も再認識した。現状や課題について、組織の維持や活性化に向けた支援を行ってほしい。

Q 自治会組織の加入・活動・組織の問題などあるが、今一度原点に返り12連合会・自治会・組単位と地

産業まつりを見直す時期に

創政会 柳原 秀一



めたため、全体として中止に至った。災害は全国各地で発生しており、来年度以降も同じような想定をしなければいけない。来年度以降に向けてどのような検討をしているのか。

Q 今回の7月豪雨は各方面で影響が出ており、その一つに平成30年度の産業まつりの中止がある。中止となった経緯は。

A あやべ産業まつりは4つのイベントを同時開催する秋の大イベント。今年度は「農林業振興祭」を担当する農林課が、7月豪雨に伴う農林関係の被害状況調査や復旧事業優先のため、不参加を決定。9月7日の実行委員会でその旨を報告したところ、「産業全体が広くPRできない」との理由で「あやべ消費生活展」と「綾部工業団地ふれあいフェスタ」も不参加を決

めたため、全体として中止に至った。災害は全国各地で発生しており、来年度以降も同じような想定をしなければいけない。来年度以降に向けてどのような検討をしているのか。

災害時の道路情報見える化を

民政会 種清 喜之



り組みを進める必要がある。

Q 命を守るために実効性ある避難対策が喫緊の課題。住民一人一人の基本的な避難計画を先行的に決めておくマイタイムラインや、地域住民の避難行動を促し、命を救う率先避難者（地域内で声をかけ自らも率先して避難する人）という存在を確立できれば有効であると考えるが。

A 府ではホームページを閲覧すれば通行止めなどの道路情報が得られるシステムが構築されている。市道の情報を一元化して府の道路情報データベースへの掲載は有効であるが、本市だけでなく京都府内全域で一斉導入を考える必要がある。府に対し強く要望している。府からは実施に向けて前向きな回答を得ている。

命を守るために実効性ある避難対策が喫緊の課題。住民一人一人の基本的な避難計画を先行的に決めておくマイタイムラインや、地域住民の避難行動を促し、命を救う率先避難者（地域内で声をかけ自らも率先して避難する人）という存在を確立できれば有効であると考えるが。

綾部市の人口減少問題を問う

創政会 渡辺弘造



が継続困難になる。市長の思いを聞いた。

A 一定の規模で人口

を地域、コミュニティで維持して行くことは必要であると考ええる。綾部市では平成

Q 人口推移データで

は平成27年度の綾部市の人口は3万3821人となっている。

中でも東部地域の人口減少は著しく綾部市の約半分を占める面積の中に人口は3743人で、約一割のしか住んでいない。また、高齢化率も奥上林地区は60%を超え中上林地区も間もなく60%に届こうとしている。このような状況の中、行政としてもいろいろな対策を講じていただいて残念ながら人口減少の歯止めとはなっていない。この状態が推移すればやがて行政サービスも滞り自治体機能

豪雨災害時の避難所対応は

民政会 酒井裕史



Q 7月7日の豪雨災害時に通常避難所として開設されるはずの小中学校が開設されていなかった。住民の方々は小中学校が避難所として開設されると認識されていると思われるが、なぜ開設されなかったのか。

A 7月5日に30カ所の避難所を開設したが6日朝に避難者が全て帰られたので一旦閉鎖し、避難者も極めて少なかったため夕方に各地区公民館を避難所として開設した。7日深夜に避難勧告を発令したが豪雨の中、開設のための移動が困難と考え見送った。

Q 被災地の上杉町施福寺地区の多くの方が施福寺公民館に避難されていた。当時、行方不明者捜索のため、規制線が張られており、自宅に戻るのが困難な状況の方から食事は何とか入浴できないのが困ると伺った。長期にわたる避難の場合、綾部市にある3つの温泉施設の無料券を配布するような対応はできないか。

A 施福寺地区の避難者には、綾部市総合運動公園にある研修センターの入浴施設を利用していただきたい。避難が長期化した場合には、研修センターの活用や自衛隊への支援要請のほか、避難者規模に応じて公衆浴場をはじめ温泉施設に協力を要請することも検討する必要がある。

在宅療養者に家庭用発電機を

日本共産党 鳩頭久美子



Q 地震、台風等の災害は長時間の停電を引き起こす可能性がある。在宅酸素療法や痰の吸引を必要とする方にとって命に直結する問題だ。電源を必要とする在宅療養者の把握、関係機関との連携はできているのか。

A 常に電源を必要とする在宅療養者の人数を把握することは不可能な状況だ。在宅医療機器は、基本的に医療機関とレンタル会社がサポートする。

Q 国の方針は、病院や施設入所者を在宅へ移す方向であり、在宅の施策充実こそが求められている。

A 現在、家庭用発電機は綾部市の事業対象になっていない。追加については社会福祉制度全体の中で研究したい。痰の吸引には充電式、手動式、足踏み式のもの

が考えられるが長時間の停電では限界があり、命の危機が迫っている場合は救急搬送の対応となる。

Q 大災害の時に救急搬送は不可能ではないか。痰の吸引も手動等では無理がある。家庭用発電機の設置は急務だ。

A 状況は承知している。有効性等を見きわめて研究したい。

元気な高齢者が活躍する社会に

民 政 会 藤 岡 康 治



Q 綾部市の特別会計における介護給付費の現在の額と、過去からの推移は。

A 平成12年度の介護給付費は15億8349万円。平成30年度の当初予算では42億6484万円となり、平成12年度と比べて2・7倍となっている。

Q 増加したその要因は。

A 介護認定者の増加や施設の新設、サービスの充実に伴う、サービスの充実に伴う、サービス利用量の増加が要因である。要介護認定者については、平成12年度が1472人、平成29年度が2633人となっており、増加してい

いきいき地域応援補助の柔軟運用を

創 政 会 荒 木 敏 文



Q 市の地域クラスター戦略の象徴的な政策であるいきいき地域応援事業補助金は、当初1地区100万円であったが、後年50万円になった。この補助金を積極的にさまざまな事業をしている地区もあれば、何とか既存事業に充当している地区もあり温度差がある。地域クラスター戦略の成功の肝は、自助、共助を公が支援し、地区の自主性と実行力の涵養をすることである。せっかく知恵を絞って活性化策をつくったもので財源がないので実行できないのでは、積極的な地区のやる気も

A いきいき地域応援事業補助金は地域の特性を活かした魅力ある、生き生きした地域づくりを応援するため、平成23年度から実施した補助金を、平成27年度に新たな補助要綱を設置し、継続事業も対象に加えた。平成29年度からは新規事業の扱いを事業スタートから3年間対象とするなど、地域の実情に合わせた制度の運用を図ってきたところである。各地区とも事業費の捻出に苦労されていることとは思うが、市も厳しい財政状況なので、現行制度の中で他の制度との併用等、工夫をして活用していただきたい。

平成30年度(4月～8月)政務活動費の収支内容をお知らせします。

政務活動費は、地方自治法第100条第14項及び第16項の規定に基づき、「綾部市議会政務活動費の交付に関する条例」を定めて、市議会議員の調査研究に必要な経費の一部として交付されます。
 なお、詳細については、市議会ホームページ、情報公開コーナー（市役所1階）で公開しています。

【収支報告一覧表】

(単位：円)

会 派	政 務 活 動 概 要	交付上限額	支出総額	交付確定額
民 政 会	コピー代、書籍購読	375,000	23,846	23,000
創 政 会	コピー代、新聞購読	300,000	12,476	12,000
日本共産党	会報発行、折込料、資料作成費、資料購入費	225,000	283,976	225,000
新 政 会	会派視察費（北本市、浦安市）、事務経費	225,000	156,848	156,000
公 明 党	新聞購読	75,000	13,500	13,000
心 友 会		75,000	0	0

※月額1万5千円/人を会派に対し交付。支出総額と交付決定額の差額は会派で支払われています。

次世代からの メッセージ



チームのどんなところが好き？

- ・だれかがいいプレーをすると盛り上がり、勢いにつけていけるところ。
- ・仲間を思い合い、はげましあいプレーができるところ。
- ・楽しんでできるところ。
- ・違うところがあつたら、みんなで教え合いができるところ。
- ・みんなが明るくて、雰囲気楽しいところや学年関係なく仲がよいところ。
- ・キャプテン、副キャプテンがみんなを笑わせてくれるところ。
- ・監督やコーチと仲がよいところ。
- ・キャプテンが野球を楽しもう、笑っていようといつも言っているの、みんな笑顔でプレーしている。
- ・監督とコーチが優しいところ。
- ・試合で負けると子どもだけで反省会をして、次の試合に生かすところ。
- ・合同チームで楽しく協力して野球ができるところ。
- ・明るいとこ。チームのムードをあげているところ。

部員を募集中! お問い合わせ先：鈴木良二さん
TEL 48-0598/090-8797-4074

豊里シャークス

2012年に豊里・物部・志賀郷地区を活動地区として結成され、現在は1年生から6年生まで21人（男子19人、女子2人）が在籍されています。

野球を通じて目の前のことから逃げない気持ちを養い、人への思いやりの大切さを指導されています。

また、いろんな局面を迎えたときに、自分自身で考えられる人になってほしいと取り組んでおられます。

将来の夢・目標は？

- ・歴史あるものを発掘する。
- ・まだ決まっていません。中学生になっても野球は続けていきたい。
- ・救急救命士。一人でも多くの命を救って、その人が人生に希望を持てるようにしたい。
- ・もちろんプロ野球選手です。阪神タイガースに入団し、鳥谷選手のようにサードを守ってチームを上位に導くような選手になりたい。
- ・看護師。看護師に限らず、人を助けられる仕事について人の命を守りたい。人の力になる仕事をしたい。
- ・プロ野球選手。
- ・プロ野球選手。一年目には新人賞をとりたい。



取材を終えて

チームとしてみんな仲良く励まし合い、勝敗にあまりこだわらず、楽しく野球をすることを一番に活動されています。

今の世の中、すぐに結果を求める風潮ですが、結果に至るまでのプロセスを監督、コーチとも一番大切にされていると感じました。

みんなが仲良く楽しんで野球をし、豊里シャークスの活動がこれからも続いていくように願っています。

編集／広報広聴委員会

- ◎ 森 義美
- 梅原 哲史
- 藤岡 康治
- 酒井 裕史
- 井田佳代子
- 中島 祐子
- 片岡 英晃
- 渡辺 弘造



(◎委員長 ○副委員長)

この8月に、第18期の議員が決まりました。9月からは新たな広報広聴委員会の委員が編集することになりました。

広報広聴委員会は、引き続き新たな感覚と視点にたち議会の見える化、市民の皆様親しみのある紙面づくりに努めてまいります。

広報はもとより広聴も重要であり皆様のご意見・ご質問・ご要望等ありましたら、議員または議会事務局までお聞かせください。

今後とも、市議会議員一同、よろしくお願いたします。

結びに、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

編集後記